

令和5年度 自己評価・学校関係者評価書

令和6年3月31日
認定こども園すずき幼稚園

1 認定こども園の教育目標

「自立できる人・たくましい生命力のある人・人に親切にできる人」を目指す人間像として、立腰教育や躰の三原則を基盤に置いた生活習慣を徹底する。又、幼児の持つ可能性をあらゆる場面で発揮できるよう、言語活動や音楽、運動にも力を入れた総合的な遊びを展開する。

2 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

感染症の5類移行を踏まえ、教育行事等をコロナ前の状態に復旧する。そのうえで指導方法等の定期的な考察を実施し、園児の心身の発達が効果的に進むよう努める。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由	学校関係者評価
1 保育の計画性	A	コロナの第5類移行を踏まえて各計画を立てた。特に行事に関しては感染拡大前の状況に戻し、じゅうぶんに実施する事が出来た。	A
2 保育のあり方 幼児への対応	A	園児の安全を最優先とした保育を心がけることができた。	A
3 教師としての資質、 能力、良識、適正	A	保育スキルの向上の為、相互に研究をする機会を設けて向上に努めた。	A
4 保護者への対応	A	保護者との関係性は非常によく、信頼を得ている印象を受けている。適切な言葉遣いや対応を職員が複数で話し合うことで認識を広められた。	A
5 地域の自然や社会との かかわり	B	園外に出かけての保育を増やしたものの、地域の施設等との関りは未だ薄いと認識している。	B
6 研修と研究	A	各種研修にじゅうぶん参加できたと共に、園内での保育スキルや保護者対応に関する職員相互研究も行うことができた。	A
7 外部アンケート	A	教育目標や方針が明確であり、本年度も外部からの評価は高かった。	A

* 結果の表示方法
A 十分達成されている。
B 達成されている
C 取り組まれているが、成果が十分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

コロナの第5類移行を踏まえて保育の計画を立て、それに則って実施する事が出来た。行事の中にはコロナ前から比べると細部が変更されたものもあったが、効果的かつ効率化を図ることができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
広報活動	園の活動等を効果的に広報する方法の研究が必要である。
地域の自然や社会とのかかわり	近隣の地域での活動が乏しい為、協力先を開拓する必要があると感じている。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

昨今は口コミによる入園希望者の比率が増加しているとの事で、良い保育をしている証であると感じている。片道1時間以上かかる遠方から登園する園児もいるのは、他に無い魅力を持っている園であると認識している保護者がいてくれるのだと思う。今後はさらに少子化が加速するが、歴史と伝統のある園である自覚を明確に持ち、永く存続して社会に貢献して欲しい。